

特集

フェムテックと産婦人科医療

企画者のことば

堤 治*¹ 林 謙治*²

フェムテック(FemTech)とは、Female(女性)とTechnology(テクノロジー)をかけあわせた造語で、思春期、月経、妊孕性、妊娠、産前産後、更年期など女性特有の健康課題を解決するテクノロジーや、それを使ったサービスを意味します。

少子高齢化社会の進む日本では、現在の社会体制を維持することすら困難となることが予想されており、今まで以上に女性が輝き、女性の能力が活用され、社会進出することが必要と認識されます。

政府も「経済財政運営と改革の基本方針」2021(骨太方針)、「成長戦略フォローアップ」、「女性活躍・男女共同参画の重点方針」2021(女性版骨太方針)により、フェムテック製品・サービスの利活用を促す仕組みづくりを令和3(2021)年度から支援することを決定、政策として実施して

います。

具体的な政策の展開において受け皿の1つになるのは産婦人科医療で、無月経、月経困難症、子宮筋腫、子宮内膜症、不妊、避妊、更年期など枚挙にいとまがありません。女性のライフステージごとの健康負荷を軽減するテクノロジーは開発段階ではありますが、産婦人科医の果たすべき役割は大であると思います。

本特集は2021年12月にオンライン開催された一般社団法人日本産前産後ケア・子育て支援学会主催「フェムテックセミナー」の講演内容を中心に、最近注目されている社会的卵子凍結や人工妊娠中絶の問題を加え、この分野に関する科学的な知識および社会的意義について話題を提供しました。女性特有の健康課題を解決する一助になれば幸いです。

*¹ Osamu Tsutumi 医療法人財団山王病院リプロダクション・婦人科内視鏡治療部門長

*² Kenji Hayashi 日本産前産後ケア・子育て支援学会理事長